

報道各位

TOKYO FM 開局 47 周年記念式典挨拶 (代表取締役社長 千代 勝美)

～2017年4月26日(水) 午前10時30分 TOKYO FM ホール～

株式会社エフエム東京は、2017年4月26日(火)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM 開局 47 周年記念式典を実施し、代表取締役社長・千代勝美が、以下の挨拶を述べました。

◇代表取締役社長・千代 勝美 あいさつ◇

本日、TOKYO FM は 47 年目の開局記念日を迎えました。開局記念日にあたり、改めて当社が 47 年間培ってきた「開発とチャレンジの DNA」の軌跡をたどり、「新しい独自性の価値を生み出すこと」に思いを馳せてみたいと思います。

1958 年、実験局として東海大学代々木校舎からわずか 1KW の出力でスタートした FM 放送は、受信機もないところから、諸先輩方の一途な使命感と情熱により、今日の礎を築いていただきました。1967 年には、JET STREAM が放送を開始し、今年は放送 50 周年を迎えます。そして 1970 年(昭和 45 年)、エフエム東京が誕生したわけですが。1979 年には、FM 多重放送の実験をスタートし、i-dio の原点はここから始まったともいえます。1981 年には、JFN＝ジャパン・エフエム・ネットワークが発足し、翌年以降、全国で開局ラッシュが始まり、音声メディア最大の全国 38 局ネットワークを形成し、今日に至ります。

開局 20 周年となる 1990 年には、ステーションネームをエフエム東京から「TOKYO FM」に変更し、企業理念を「感動を提供し、共感を得る」と定め、ステーションキャンペーンの「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ」をスタートさせました。まだ日本がエコノミックアニマルと世界から揶揄されていた時代にあって、いち早く近未来の環境問題を若者たちに投げかけ、環境問題に対する意識の醸成と具体的な行動を呼びかけてきました。2005 年からはもうひとつのキャンペーンテーマ「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」のメッセージをスタートし、2011 年の東日本大震災を機に「EARTH X HEART」として音楽のライブコンサートに乗せ、地球への想いとともにかけがえのない生命の大切さのメッセージを発信してきました。

さて、1993 年には、日本で最も成功したサテライトスタジオと評される「渋谷スペイン坂スタジオ」を開設し、23 年間にわたりランドマークとして活躍してきました。1995 年には、文字多重放送の「見えるラジオ」、いわゆる「見えラジ」を開発し、そして 1997 年には D-GPS を開発し、昨年放送を開始した i-dio に至る先駆的なビジネスを実現するなど、当社独自の価値を生み出してきました。

こうして、当社の原点は、新たなものへのたゆまぬ開発精神とチャレンジの繰り返しなのであります。しかし、インターネットの出現、そしてその高度な進化が、メディアの構造改革を起こしました。近年の超多メディア時代といわれるメディア環境は、劇的な変化が加速しており、もはや従来の概念に囚われていたら、取り残されてしまう時代になりました。

アナログからデジタルの時代の流れへ、まさに、i-dio 事業では、真に放送と通信の融合ビジネスを具体的に実現することが、この激変の時代に淘汰されるのか、それとも新たな変革の主役になるのかの大きな転換点になるのだと思います。芽吹こうとしている新たな事業のつぼみに、皆さんと心ひとつにして、大輪の花を咲かせたいと思います。

放送の世界では今日、世界的にもデジタルシフトが加速していることは皆さんご存知のことと思います。当社も基盤となる FM 放送事業をさらにさらに強固なものにした上で、今年はいよいよ、通信を活用した音声ターゲティング広告「デジタル・オーディオ・アド」事業を立ち上げ、新たなデジタルビジネスを生み出すチャレンジをしていきます。常に、新しいメディア・ポジションを創り出す、従来の枠組みを超えた他に比類ない独自の考えや発想で新たなサービスを確立させ、そして豊かな社会の創出のために取り組んでいくことに使命感を感じます。

我々はメディア人として、誇りと責任を持って、凜として行動し、自由な発想と貪欲さで、開発とチャレンジの DNA を全員が共有し、立ち足る幾多の困難をも信念を持って突破し、それを乗り越えた先の夢と希望を信じてオープンに議論しながら、皆で連携し新しいイノベーションの風を起こしていきましょう。

以上